

講演会出席し 人脈を広げる

株式会社 地圏環境テクノロジー 代表取締役社長

西岡 哲さん

Tetsu Nishioka



静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

独自の水循環解析技術

人間の命と直結する水。しかし、地下に染み込んだ水の流れや影響がどうなっているのかは案外知られていない。「地圏環境テクノロジー」は、地形の高低差や地質、気象など、さまざまなデータを基に開発した独自の水循環シミュレーションシステム「GETFLOWS」で、日本列島の地下水の流れ、洪水氾濫リスクなどを解析再現する、世界的にも希少な存在の会社だ。

「50歳の時に勤めていた東急建設を退職し、このソフトを開発した東京大学大学院の登坂博行教授（現在同社の会長）に声をかけられ、2000年9月に一緒に起業しました」。

大手ゼネコンで主に工法、材料開発を担当していた西岡さんにとっては、ある意味、異分野。人脈づくりが重要だと判断し、水に関わるさまざまな講演会に積極的に出席。極力前の席に座り「おやと思いうような質問」をどんどんした。休憩時

間を利用して講師に面会も。そうした地道な努力を重ねた結果、著名な講師に顔を覚えられ懇意になっていったという。この15年間で交換した名刺は数万枚。「おかげさまで随分人脈が広がりました」。

静岡市や東京・江戸川区など同社の解析技術を活用した事例は500を超えている。近年の水問題に対する関心の高まりや気象変動による災害多発などに加え、水循環基本法の制定も追い風に、「ニーズが非常に増えてきている」と、まさに嬉しい悲鳴。

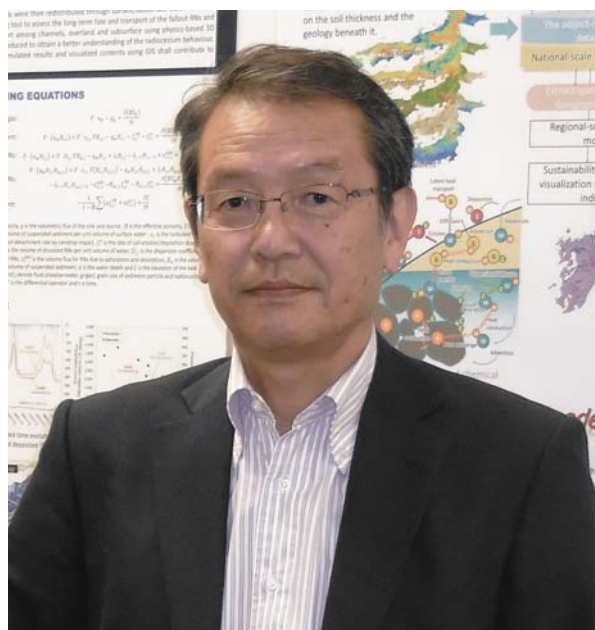
日本列島の地下水の動きなどのリアルタイム配信や、地球をコンピューターの中で丸ごと再現し、途上国の災害防止に向けたインフラ整備などに役立つ情報の提供などの実用化を急ぐ。インターネット検索サービス社との「連携」も模索する。

静岡市大創設、推進を

先の9月市議会で田辺信宏静岡市長が「市立大学」創設を検討する考えを表明した。西岡さんは「ぜひ推進してほしい。ただ何をウリにするかですね。芸術とか、環境とかに特化すべきだと思います」と話す。

人口減はほとんどの自治体の共通の悩み。「減ったからこそ、できるまちづくり、その土地の特性を生かした先進的、先駆性のある施策に取り組んでほしいですね」。

(文写真…長田義明)



経歴

静岡市駿河区生まれ。静岡市立高校卒業。茨城大学農学部卒業。東急建設株式会社入社、技術研究所で土木施工技術の開発、大深度地下の開発実証研究などを担当。中国の砂漠での大型太陽光発電プロジェクトの調査研究に参加。2000年9月、登坂博行東京大学大学院教授と株式会社地圏環境テクノロジーを起業。世界最先端の水循環シミュレーションシステムを開発し、国や自治体、民間企業などに水資源、水環境、水災害問題に関する政策立案の際の解析・基礎データなどを提供している。66歳。一般社団法人 静岡県人会理事。
<http://www.getc.co.jp/>